

せい や 聖 夜

■ 楽曲データ

歌詞：九條武子 作詞

楽曲：中山晋平 作曲

発表：—

初演：—

初出：—

管理番号：M1132

■ 創作の経緯

歌詞は九條武子の随筆歌集『無憂華』（実業之日本社、1927年）所収。資料の状況より、1927（昭和2）年から1939（昭和14）年の間の作曲と考えられる。

■ 校訂報告

校訂譜：『聖歌・讃歌集』第5巻収録

底資料：『和英標準佛教讃歌勤式集』 本派本願寺内翻譯課 1939年

比較資料：作曲者自筆譜（中山晋平記念館所蔵）

校訂の詳細：特記事項なし

■ 解説

夜空に輝く、美しいあまたの星の如くおわする仏たち——この作品では、その仏たちにまもられて生きていることの歡喜と安らぎが歌われます。

◆ 作詞者について

作詞の九條武子さま（1887～1928）は、本願寺第21代明如上人の二女としてご誕生されました。義姉である大谷籌子さま（第22代鏡如上人裏方）と共に、仏教婦人会や、仏教主義に基づく京都女子専門学校（現・京都女子学園）の設立を支援され、女性の教化や教育振興に努められました。歌人としても知られ、『金鈴』『薰染』などの歌集を遺されています。

武子さまは、1928（昭和3）年2月7日、42歳でご往生されました。ご命日は「如月忌」と呼ばれています。

◆ 作曲者について

作曲の中山晋平は、1887（明治20）年、長野県生まれ。「晋平節」とよばれる独特の庶民的な歌のスタイルを作りあげ、日本近代の大衆歌曲の道を開きました。島村抱月主宰の芸術座公演『復活』（松井須磨子主演）の劇中歌《力

チューシャの唄》や、《ゴンドラの唄》《波^は浮^ぶの港》など数々のヒット曲を書いたほか、《証誠寺の狸囃子》《砂山》などの童謡でも親しまれています。

◆歌い方について

6/8拍子は、3拍（8分音符×3）をまとめて1拍ととらえ、1小節を大きな2拍子で感じましょう。ブランコの揺れなどをイメージしてください。親しみやすいメロディーですが、音が大きく跳躍する部分に注意して。

①まず、詞を音読してみましょう。

②低い音域から歌い出します。なごやかに歌いましょう。

③5・6小節目の「夜ぞら」は、いちばん高い「よ」の音だけが飛び出さないように気を付けましょう。次の小節へ続くように歌うとよいでしょう。

④息継ぎは、メロディーのまとまりを考えて、できれば4小節ごとにとりましょう。6小節目の付点4分音符のあとで息継ぎをする場合は、この音符が短くなりすぎないように気を付けて。14・18小節目も同じです。

⑤7小節目の上行音型は、音程に注意してなめらかに歌いましょう。15小節目も同じように。

⑥8小節目のタイで結ばれた「ド」は、ピッチや長さをしっかり保ちましょう。喉を開けすぎると粗雑に聞こえます。

⑦9小節目5・6拍目「ラ㇑」→「ファ」の動きは、大きな跳躍です。上がった音の歌詞は、1番では助詞ですから、強くならないように。一方、2番では、「おわする」という単語の語頭なので、軽く言い直しましょう。

⑧10小節目6拍目の8分音符は、乱暴にならないよう、そっと置くように。ここで息継ぎをする場合は、すばやく。

⑨19小節目は、「わが」がひとつの単語に聞えるよう、スムーズに歌いましょう。「が」の音程に注意して。

◆用途・楽譜・音源など

仏教婦人会の例会の折などにぜひ歌ってください。夜の法座の最後に歌ってもよいでしょう。

二部合唱版は、楽譜が『讃歌集 二部合唱』第9巻、参考音源はCD『讃歌集二部合唱 あの空見れば』に収められています。

解説執筆：大分哲照（御堂演奏会指揮者 福岡教区西嘉穂組明圓寺住職）

※本解説は、「メロディーの宝石箱」No. 16（仏教婦人会総連盟機関誌『めぐみ』第141号収録）を加筆・修正のうえ、転載。